

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673200374
法人名	株式会社 樫の木
事業所名	グループホーム眺海
訪問調査日	平成 20 年 8 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	673200374
法人名	株式会社 櫻の木
事業所名	グループホーム眺海
所在地 (電話番号)	山形県酒田市山寺字宅地159番地 (電話) 0234-62-2730

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,900 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.1歳	最低 66歳	最高 92歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人山形愛心会庄内余目病院、岡田内科循環器クリニック、高橋歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

みんなで精魂込めて育てた野菜を利用しながら一日3回の食事を利用者と職員が協力して作っており、暖かく家庭的な雰囲気の中での認知症ケアに取り組んでいます。
希望者には認知症の進行を遅らせるための学習療法を取り入れてみるなど、より質の高い認知症ケアへの取り組みも進められています。
また、地域住民の一員としての関わりの中からも利用者の笑顔を引き出してこうという働きかけが行われている、微笑みと笑顔の絶えない明るいホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価を行う意義について、運営者、管理者、職員で話し合い理解されており、職員全員で評価に取り組んでいる。また、評価を通して気づいた課題についても改善に取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度行われる運営推進会議には地域の代表、市職員等に加え、利用者や利用者のご家族も出席しており、意見を出しやすい雰囲気の中で、評価への取り組みと結果報告および話し合いが行われ、サービスの向上につながられている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に利用者の状況を伝えるとともに、家族が意見を言い出しやすい雰囲気づくりにも努めている。ホームには苦情相談窓口が設置されており、また、家族が外部の人に意見を言える場(窓口)があることも説明されている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の祭りへの参加、自治会の夏祭りへの協力、小学校の運動会や音楽会の見学など、地域の一員として関わるようにしている。また、中学生や一般のボランティアを受け入れており、地元の人々との交流を積極的に図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念に「あなたらしく自由にゆったり、のんびり、ほっとする笑顔のある暮らし」を、ケア理念の一つに「地域住民として地域とかかわりながら暮らします」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えて行くサービスとして、ホーム独自の理念を職員全員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について月一回のホーム会議で、また、日々の申し送りやミーティングの中で話し合いを行い、職員全員が共有し理解しており、具体的な目標を掲げ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りへの参加、自治会の夏祭りへの協力、小学校の運動会や音楽会の見学など、地域の一員として関わるようにしている。また、中学生や一般のボランティアを受け入れており、地元の人々との交流を積極的に図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を行う意義について、運営者、管理者、職員で話し合い理解されており、職員全員で評価に取り組んでいる。また、評価を通して気づいた課題についても改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行われる運営推進会議には地域の代表、市職員等に加え、利用者や利用者のご家族も出席しており、意見を出しやすい雰囲気の中で、評価への取り組みと結果報告および話し合いが行われ、サービスの向上につなげられている。		

山形県 グループホーム眺海

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは電話や互いに行き来することにより、現在のホームの入居状況や運営について伝えたり、アドバイスや情報を得ながら、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態について、毎月手書きの手紙で家族に伝えている。金銭管理については、領収書やレシートを添えて利用明細を報告している。また、職員の異動はお便りや電話で連絡しており、家族に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の状況を伝えるとともに、家族が意見を言い出しやすい雰囲気づくりにも努めている。ホームには苦情相談窓口が設置されており、また、家族が外部の人に意見を言える場(窓口)があることも説明されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員が馴染みの関係になるように、異動は最小限にしている。職員交代時は、利用者への説明を十分おこない、職員間の引き継ぎを行って、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は管理者及び職員を段階に応じて育成するために、外部研修の機会を積極的に設けている。研修の報告は職員全員に回覧しており、月1回のホーム会議で「プチ研修」と称する研修報告会も行われている。また、新人職員にはベテラン職員が3ヶ月間マンツーマンで指導する研修期間を設けている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム協議会の研修会に年2回参加している。また、グループホーム同士の交換研修の受け入れも行い、地域の同業者と交流する機会を設け、日々のサービスの質の向上につなげている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	山菜の調理方法や料理の味付けを教えてもらうなど、利用者から学び、共に支え合う関係ができています。また、人生経験の豊富な利用者から職員が悩みを聞いてもらうような、人生相談的な場面も日々の生活の中で見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのやりたいこと、希望などを日々の暮らしの中で聞いたり、書いてもらったりしており、入居時の課題分析と定期評価により、思いや意向も把握している。また、困難な場合には家族に話を聞いたり、利用者の表情などから本人の視点にたって検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人がより良く暮らすために、生活面については本人と家族の意見や要望を聞きながら、また、医療面についてはかかりつけ医、看護師と職員全員で話し合いをもちながら、個々に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価は定期的に行われており、また、日々の暮らしの中で状態に変化がみられた場合、本人及び家族から希望があった場合は話し合いと見直しを行い、状況に合わせた新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	体調不良の受診時は家族が同行することになってい るが、都合のつかない場合や緊急時は職員が代行して おり、適切な受診支援が行われている。また、月に一度 かかりつけ医が往診に来てくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	終末期のあり方についてのきちんとした指針があり、そ れに沿って本人や家族、かかりつけ医と繰り返し話し合 いを行い、全員で方針を定め共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者に不快な思いをさせないような言葉づかいと対 応を心がけている。また、記録やメモを目につかないよ うに工夫し、個人情報の取り扱いについての取り決めを 全職員が理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりがその日をどのように過ごしたいか、 また、日々の暮らしの中で何を希望しているのかを把 握しており、本人のペースを大切に守りながら、可能な 限りやりたいことが実現できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた食材を使い、利用者が食べたい献立を決め、3食とも職員と一緒に会話を楽しみながら食事を行っている。また、利用者の力を活かしながら、食事の準備や後片付けを行っており、食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間や順番で楽しく入浴を行っている。また、入浴を拒む利用者もいるが無理に勧めることはせずに、一日おきの入浴が確保されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力を活かした買い物、掃除、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、張りのある日々を過ごせるようにしている。また、散歩やドライブ、カラオケ、みんなで歌うなど、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店に歩いて買い物に行ったり、天気の良い日は散歩に行ったりと、本人の希望や体調、天候を考慮した日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中玄関に鍵をかけることの弊害をすべての職員が理解しており、利用者一人ひとりの外出傾向をつかんだ個別対応とセンサーの設置により、鍵をかけなくても安全に過ごせるようにしている。また、警察や地域の方々にも理解を求め、協力してもらえる関係もできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、消防団、自治会、婦人会、市役所などの協力を得ながら、年2回防災の総合訓練が行われている。また、夜間を想定した避難訓練と消火訓練も行われており、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分のチェックと記録により、摂っている量や栄養バランスの確認が行われている。また、月に一度体重測定を行っており、利用者の状態についての情報を職員間で共有するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が共に過ごす場所には、大きな時計、見やすいカレンダー、季節を感じさせる装飾があり、窓からは柔らかな光が差し込んでいる。また、食事の時間が近づくと、炊事の音やご飯の炊ける匂いもする、生活感のある居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、利用者の使い慣れたタンス、鏡台、テレビ、思い出の写真、位牌などが持ち込まれている。また、利用者や家族の希望によっては畳の提供も行われ、快適に過ごせるように配慮されている。		